

## 松戸市の特殊教育の歴史調査 余話—その2—

全国特別支援教育推進連盟  
理事長 大南 英明

広報まつど（昭和47年2月5日号）は、「知恵おくれ幼児の幼稚園  
“ゆうかり学園”が開園したことを報じた。その内容は、次のようです。

知恵おくれの幼児（入学前）のための通園施設「市立ゆうかり学園」が、1月20日、小金原団地内に開園しました。

これは、幼稚園や保育所には入れないため家にとじこもりがちな知恵おくれの幼児のための施設です。

園舎は、小金原4丁目の3873㎡の広い敷地内に、旧公団事務所を買収、改修した指導室3室、医務室、相談室、浴室などをもつ軽量鉄骨平屋造りのものです。

「元気で明るく楽しく、ひとり歩きできるように」の指導目標のもとに、3歳から5歳までの幼児31人が、さっそく入園し、土・日曜日を除く毎日、送迎用の冷暖房つき専用マイクロバスで楽しく通園しています。

幼児の指導には、専門指導員や保母、看護婦があたり、月1回、精神科と内科の嘱託医による検診も行なわれます。

指導は、簡単なことばやゆうぎなどの基礎学習や、自分の身のまわりの始末など生活指導をおもに行なっています。幼児たちは、親から離れての初めての集団生活に大はしゃぎ、表情も日一日と明るくなっています。

同じ敷地内に新しい園舎建設も計画予定されています。

指導員の話 はじめはバスに乗るにも泣いていた子も、今は友だちもたくさんできて楽しそうに通園しています。ここは広いので、みんな大はしゃぎで活発に飛びまわっていますよ。

わたしたちも、明るくなってきた子どもたちの指導にやりがいを感じています。

◇入園手続き…入園希望者は、福祉事務所（内線429番）へ申請してください。

養護学校教育の義務制が始まる以前は、全国どこでも、松戸市と同じように幼稚園、保育所に入れない知恵おくれの幼児がたくさんいて、家庭の負担が大きかった時代が続いていました。

「ゆうかり学園」は、この後、学校教育の場にもなり、松戸市、千葉県の子供発達障害児教育に重要な役割を担うこととなります。（続く）

【注】用語は当時のまま使用しています。